

平成 24 年 12 月 17 日
生涯学習・文化財課

福井ふるさと文学館(仮称)整備の状況について

1 これまでの状況

- ・ 6 月、第 1 回基本計画策定委員会を開催し、基本的考え方について協議。
「親子で楽しめるなど幅広い層に利用してもらえる施設に」「継続的に興味や関心を引きつける工夫が必要」等の意見や提案が出された。
- ・ 10 月、津村節子氏の資料を県が一元的に保存・活用することについて、津村氏、仁愛女子短期大学、県の三者が合意。
- ・ 10 月 30 日、第 2 回策定委員会を開催し、全国の文学館の事例を参考に、展示や教育普及活動について協議。
「展示替えが可能なフレキシブルな展示に」「映像資料も収集し、活用してはどうか」「県内外の文学関連施設や学校との連携を進めるべき」等の意見や提案が出された。

2 第 3 回基本計画策定委員会について

- ・ 12 月 12 日に第 3 回を開催し、展示スペースのレイアウトや展示内容、教育普及について協議

【資料 1】展示計画について(案)

【資料 2】教育普及について(案)

3 今後のスケジュール

平成 24 年度 基本計画策定

平成 26 年度 開館予定

《参考》

福井ふるさと文学館(仮称)の整備について

目 的 ふるさとゆかりの作家や福井県を扱った作品の資料を収集し、紹介することを通じて、文学への親しみを深め、県民の文学意識の高揚を図る

設置場所 県立図書館内(郷土資料・環日本海コーナー)

展示計画について (案)

■多様なテーマで文学を知る (企画展示ゾーン)

○企画展 (年3回程度)

福井ゆかりの作家の企画展を主とし、小中学生向け展示や他文学館との共同企画展等を開催し、直筆資料(実物)、愛用品、初版本、パネル、タペストリー等のフレキシブルな展示を行う。貴重資料が展示できるよう、遮光、ガス消火を備えた設備とする。

テーマ例:「開館記念特別展 津村節子の世界」「夏休み企画展 かこさとしの絵本」「ふるさとの日記念 中野重治とふるさと福井」など

■文学を鑑賞する (図書・映像ゾーン)

○図書・雑誌閲覧コーナー

ゆかり作家 30 人をはじめとする福井県ゆかりの作家の作品や福井県が舞台の作品の図書・雑誌、県内文学同人誌等、ふるさと文学を読むことができる。

○映像資料視聴コーナー

作家の朗読を収録した「声のライブラリー」(日本近代文学館)など、福井ゆかりの作家を知るための映像記録をコレクションした「ふる文アーカイブス」を視聴できる。

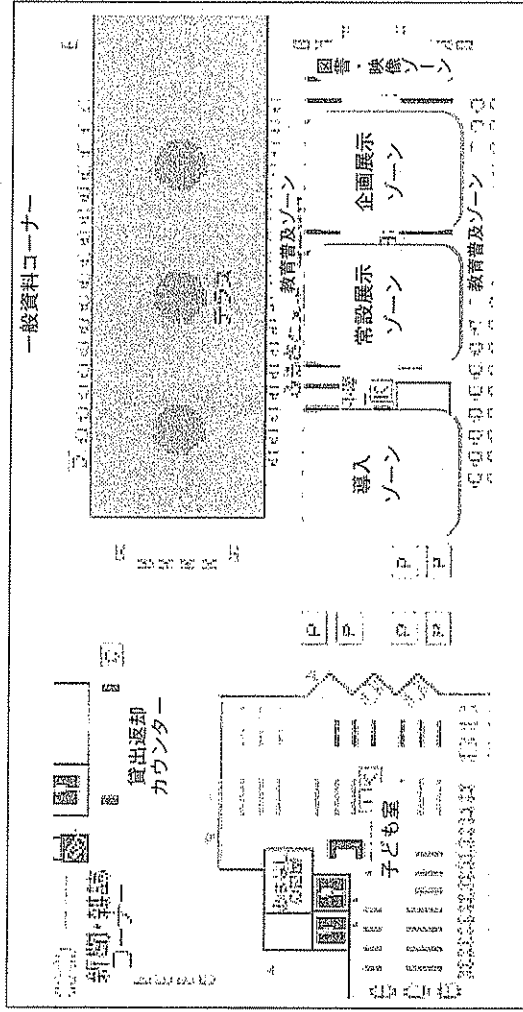
■ふるさと文学を学ぶ (教育普及ゾーン)

○教育普及活動成果の展示

講演会や文学散歩の実施風景写真や感想、創作講座やワークショップで創られた作品など、文学館の教育普及活動の成果を展示する。

○ことばパズルコーナー

文字が書かれたサイコロを組み合わせ、回文やふるさと文学の作品名に並び替えるといった、パズル遊びの要素を取り入れるなど、楽しみながら言葉やふるさと文学について学ぶ場をつくる。



■福井を代表する文学者を知る (常設展示ゾーン)

○文豪コーナー

中野重治、高見順、水上勉について、代表的な作品から、交遊関係、外国語に翻訳された作品、映像化作品まで、幅広い観点から紹介

○津村節子コーナー

原稿、取材ノートや愛用品等の資料を順次入れ替えながら、ふるさと五部作、夫婦の絆、女流作家との交流など、津村文学の世界を紹介

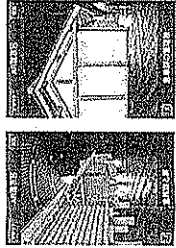
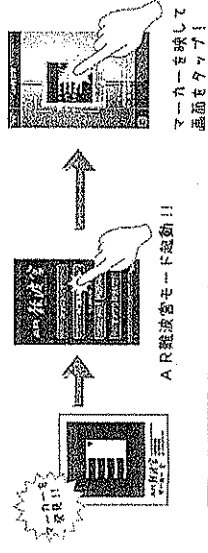
○福井の文芸の礎コーナー

三好達治の福井での足跡と、三好の滞在をきっかけとした福井の文学の隆盛について紹介

■展示例

- ・人物や作品の紹介パネル、複製原稿、愛用品、初版本等を展示。
- ・詳細解説と資料公開のため、タブレット端末を設置。大量の原稿をページをめくるように表示、葉書の表裏の表示ができる。解説の文字の大きさは自由に設定可能。文豪サイズなど学びの要素も取り入れ

る。
・文学館アプリを各自が携帯端末にダウンロードし、詳細解説や音声ガイドで観覧できる。バーチャルで書斎の再現を行う。



■ふるさと文学との出会い (導入ゾーン)

○福井ゆかりの作家 80 人

小説、詩、短歌、俳句など文学のジャンル別に、福井ゆかりの作家 30 人を写真入りパネルで紹介し、作家を知る導入とする。複製原稿や初版本を数点ケース展示し、定期的に展示替えをする。

○福井ゆかりの作品

ふるさと文学の作品をテーマ別に福井の風土とともに物語で紹介し、作品を読むきっかけづくりを行う。例えば、山、海、伝統工芸、女性などのテーマから「伝統工芸」をタッチすると、福井の伝統工芸の映像と作品を紹介する物語が展開していくデジタル本や、作品の一場面を人形で表現した展示を行う。

○タイムスリップコーナー

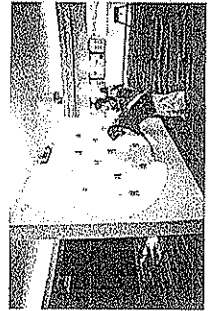
新たに寄贈された資料の紹介や、福井ゆかりの作家の文学賞受賞など話題の作品や作家を紹介するため、フレキシブルなコーナーにパネルや本などを展示する。

○福井県文学マップ

福井県内の各地域に関連する作品や、文学館、文学碑、作家ゆかりの場所がわかるような文学マップを、デジタルパネルなどで展示する。

○福井県文学年表

近世から現代までの福井県の文学の歴史がわかるよう、年表形式のパネルで紹介。



デジタル本
(かわさきエコ暮らし未来館)

デジタルパネル(鹿児島県/生命と環境の学習館)

教育普及について(案)

一般県民

ふるさと文学の普及

◆講演会、文学入門講座

作家の講演会やふるさと文学の入門講座などを開催し、文学館への関心を高める。

◆ふる文メモリーズ

ふるさと作家本人の朗読会を行って作家の生の声を知ってもらうとともに、資料として記録に残す。

◆ふる文アーカイブス

ふる文メモリーズや講演会の映像、記録集など文学館で作成した資料のほか、他機関が制作した作家の朗読、インタビュアー映像を収集し、作家を知る資料として活用する。

◆教員への利用講座

教員へ文学館の機能や活動を知ってもらう利用講座の開催により、学校教育での活用を支援し、子どもたちに文学館への関心を高める。教員が受講する研修講座のひとつを文学館で開催。

◆副読本の作成

高見順や三好達治の詩、橘曙覧の和歌など教科書で取り上げられている作品を参考に、小学校高学年、中学生向け副読本を作成し、授業等で活用する。活用事例をインターネットで公開し、いつでも参考にするようにする。

◆学校への出前講座・移動文学展

学芸員が学校へ出向き、ふるさと文学を小中学生向けにわかりやすく授業をしたり、直筆資料を見せながら説明したりすることで、ふるさと文学や文学館に興味を持ってもらう。

◆ワークシヨップの開催

図書館庭園で自然を感じながら詩を詠む、体を動かしながら言葉遊びをするなど、子ども向けに楽しみながら言葉を身につけ文学に親しむ活動を行う。

◆文学専門講座

「プロレタリア文学と検閲」「評論家からみた高見順」など専門的な内容の講座を行い、文学愛好者の要求に応えていく。知識のレベルアップを図り、入門講座講師や参加者交流の中心的役割の担い手の育成にもつなげていく。

◆一般学芸員企画展

高校生、大学生、一般県民らが学芸員となって、文学のミニ企画展を開催。学生や一般の方の学芸員とは異なった視点や感性を活かし、文学館への新たな関心を喚起する。学生のキャリア教育の場としても活用。

文学愛好者

文芸活動の支援

ふるさと文学ノート

ふるさと作家の紹介、ブックガイド、県内文学館の紹介、文学忌や記念日などの文学カレンダーなどを掲載した読書記録ノートを作成。個人の読書記録をつけることで、ふるさと文学により親しみ、文学館の利便につなげる。